わたしの夢

たくさんの人を助ける薬剤師になりたい

川俣中学校3年 佐藤 詩乃（しの）

わたしの夢は、たくさんの人を助けることのできる薬剤師になることです。もともと私がまだ幼稚園生の頃に祖父から「詩乃が大きくなったらお医者さんになってじいちゃんを助けてな」と言われてから医者になりたいと思っていました。しかし、中学生になり、本気で将来のことを考えた時に小さい頃からの夢である「医者」か興味のある「研究者」で悩んでいました。そのことを母に相談すると「人を助けることのできる仕事はもっとたくさんあるからもう少し考えてみたら」と言われ、数日考えて直し、自分の好きな理系の勉強を続けながら人を助けることのできる「薬剤師」という選択肢を選びました。製薬会社に務めるのか薬局などで働くのかなど詳しいことはまだ決めていませんが、薬剤師になるために国公立大学の薬学部への入学を目指していますが、夢ではなく目標として勉強に励みたいと思っています。そしていつか母や祖父など大切な人の力になりたいと思います。

町長のひとこと vol.41

8月7日、「こどもの居場所づくりトップセミナー」に参加してきました。セミナーでは「『こどもまんなかまちづくり』がひらく世代間交流の扉」と題して、元東京都三鷹市長の清原慶子氏が、「保護者支援」と共に「こども本位」に注力し、市長在任中（4期12年）に合計特殊出生率0.94から1.25以上を確保したことについて話されました。この実現には、住民と行政の相互信頼に基づく「多様な主体」「多様な世代」「多様な機会」での市民参加・協働推進が必要ということでした。また、自治体が進める政策には、「大人の視点」「保護者の視点」だけでなく「こどもの視点」を大切にして、構想し、実現を目指すことが重要だということです。本町も少子化対策の第一に「子育て支援策」を掲げていますが、多くの事例を聞くことができ、さらなる子育て支援策の充実のために、大変参考になるセミナーでした。

毎月1日発行 令和6年9月1日発行

編集・発行 川俣町役場総務課文書広報係 〒960-1492 川俣町字五百田30 TEL 566-2111（代） ■今月の広報かわまたの印刷経費は1部90円です。
印刷・製本 株式会社川俣活版所

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。